

FURUNOのあゆみ

古野電気創業ストーリー

「みえないものをみる」 技術で漁業を近代化

1938年、古野清孝が長崎県口之津町（現在の南島原市）に古野電気の前身である「古野電気商会」を創業。ラジオ修理業に始まり、漁船の集魚灯の修理等を請け負っていた。戦後の食糧難の最中、「魚がいる所には泡が出る」という漁師の言葉をきっかけに、魚群探知機の開発に着手した。清孝は、弟の清賢とともに幾度となく船上実験を重ね、1948年に世界で初めて、魚群探知機の実用化に成功した。



初期の魚群探知機

世界初魚群探知機の実用化に成功



1938年～
1948年

1970年～

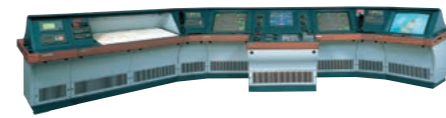


漁業の近代化を
世界に向けて発信

世界の
“FURUNO”へ

1972年、魚群探知機部門で米国海洋電子機器協会(NMEA)最優秀メーカー賞を受賞。1977年、船舶用電子機器では歴史も実績もある英国のデッカを抜き、船舶用レーダー部門で最優秀メーカー賞を受賞。また、1974年にはノルウェーにはじめての子会社を設立。その後、1978年にアメリカ、翌1979年にはイギリスに子会社を設立し、本格的に海外進出を始めた。

1990年～



商船でも安全安心な
航海を支える

新たな市場、
分野への本格参入

船用事業では商船市場へ参入し、GMDSS(全世界的海上遭難安全システム)や、船舶の機関制御機器、通信機器などをすべて統合し、すべての情報を1箇所管理/操作できるようにしたIBS(総合化ブリッジシステム)を開発。陸上分野では、船用機器で培った技術を活かし、GPS機器の開発に取り組んだ。

2000年～



船用で培った技術を
車載器や医療機器へ展開し、
人々の安全・健康に貢献

新分野への挑戦

船用機器で培った技術を活かし、カーナビゲーション用GPS受信機やデジタル放送設備向けのGPS応用製品、ETC車載器などのITS機器を開発。また、独自の超音波技術、電波技術などを用い、骨密度測定装置や血液分析装置などの医療機器を開発した。

2020年～



安全安心・快適、
人と環境に優しい社会・航海の実現

経営ビジョン
“NAVI NEXT 2030”の開始

事業ビジョン「安全安心・快適、人と環境に優しい社会・航海の実現」は、「FURUNOのすべての事業は、海でも陸でも、安全安心かつ快適であることを前提に、人と環境に優しい社会や航海の実現を目指す」という、「私たちが最も優先する価値」を表現しています。これまでFURUNOが事業活動で重視してきた「安全安心」「環境」という提供価値を、「安全安心」と「快適」「環境」と「人」の視点へ拡大し、既存事業での顧客提供価値の拡充や周辺領域での新規事業育成を推進していきます。

2030年 目標値
売上: 1,200億円
営業利益率: 10%

